

ーやきものの安全に関わるはなしー

やきものと鉛溶出のはなし

1. やきものから重金属が溶け出す可能性

「やきものから鉛などの重金属が溶け出すことがありますか」と質問されることがしばしばありますが、下絵付と白釉が施された白磁製品に範囲を限ると、その答えは否となります。また、もう少し範囲を広げても、(1)重金属を含んだ釉薬や上絵具を使っていない陶磁器製品、(2)素焼に釉薬を施し、1,200℃以上の高温で焼かれている陶磁器製品からは、重金属が溶け出すことはありません。長崎県の代表的な県産品である波佐見焼・三川内焼は、成形後、約900℃で素焼を行い、下絵付を施し、釉薬を表面にコーティングして約1,300℃で本焼を行った白磁製品です。従って、こうした製品から重金属が溶出することはまずありません。

重金属溶出の可能性のある製品は、上記の本焼の後に、上絵具で絵付を施し、約700～800℃で焼付けた製品で、上絵具に重金属が含まれている場合に限られます。近年は重金属を含まない絵具が普及しており、こうした絵具を用いた製品では重金属溶出の心配は全くありません。

2. 長崎県の「白磁」製品からの鉛溶出検査

市販の波佐見焼を任意に10種類購入し、食品衛生法に定める方法で鉛の溶出試験を行いました。その結果、全ての商品において、溶液中の鉛濃度は、測定可能な限界値未満でした。試験した食器は全て素焼した器に釉薬を施し、1,300℃で本焼きされた磁器であり、上絵がなかったものですが、鉛の溶出は確認されませんでした。



鉛の溶出試験をした波佐見焼製品